



平和と独立を求める民衆の「決意」を伝える
神道ジャーナリズム誌

「五輪ありき」による国の歪みと思想の歪みを正そう

東京五輪は今すぐ中止を

神苑の決意 木川 智

本号の内容

【主張】東京五輪は今すぐ中止を（木川智）：1／【連載】児玉啓士夫を君知るや（5）（木川智）：4／【連載】アジア放浪記―歴史を掘り起こし日本を見る（43）（仲村之菊）：6／花瑛塾令和三年五月活動報告：8／【連載】記録沖縄戦⑭（沖縄戦史研究会「棒兵隊」）：10／那覇市議選のすすめ（中）（仲村之菊）：13／「帝国ホテル剣舞事件」小考（木川智）：16／【連載】葦津珍彦と神道ジャーナリズム15（鎌倉佐助）：18／編集後記：20

1部 1000円

【主張】 東京五輪の開会まで二カ月をきった。

平和の祭典といわれる五輪であるが、コロナの感染が拡大し、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発令され、各地で医療のひっ迫や事実上の医療崩壊が発生し、多くの死者も出ている。コロナ禍への不安と政府のコロナ対策への不満や不信が渦巻く世情は、平和の祭典を歓迎する雰囲気にならない。

それは各種世論調査の結果でも明らかだ。

今夏の五輪開催の中止ないし延期を求める声はいずれも半数以上となり、なかには五輪中止・延期を求める声が八割を超える結果となった調査もあった。

これが現実である。

政府は五月二十八日、現在発令中の緊急事態宣言を今月二十日まで延長するとした。

なぜ宣言を延長せざるをえなかったのか、政府の対応の不十分さについて説明や総括はない。そして二十日まで延長して具体的に何をどうするのか、明確な課題設定や数値の提示もない。

とにかく五輪のために不十分な宣言を発令し、五輪のために宣言を延長し、五輪のために宣言を解除し、そしてまた五輪のために宣言を発令する。こんなことばかりを繰り返してきた。

五輪開催ありきで、政策に歪みが生じている。五輪のために国が歪み、その歪みの矛盾が国民生活の上にのしかかり、人々の生命がおびやかされている。このようなことが許されていいはずがない。今夏の五輪開催は今すぐ中止し、国の歪みを正すべきだ。

東京五輪をめぐる思想の歪み

同時に、国の歪みとともに、五輪開催を支持する言説の裏に見え隠れする思想の歪みも正したい。